

わかりやすい道路案内標識の取り組みについて —日沿道（白神山地周辺）における—

東北地方整備局 能代河川国道事務所 正会員 坂 憲浩
非会員 中嶋 正浩
非会員 ○高橋 玲

1. はじめに 秋田県北地域（図-1）は、世界自然遺産「白神山地」を有しており日本海沿岸東北自動車道（以下：日沿道）の延伸により、今後、当該地域に関わる広域的な交通の流れが大きく変わることが見込まれている。現在、能代河川国道事務所において、日沿道沿線の市や商工会議所等と広域観光や産業面の発展のための意見交換会を定期的に行っている。その中で日沿道から「白神山地」へアクセスを強化すべきとの意見があった。また、平成27年11月30日に開催された「日本海夕陽ラインシンポジウム」においても、「白神山地」へのアクセス道路と日沿道の交差箇所は「白神山地入口」と名前をつけ、道路案内標識や地図・観光パンフレットと連携すべきと提案された。これを受け、能代河川国道事務所では、「わかりやすい道路案内標識のための標識改善検討会（以下：検討会）」を発足させた。一方、国土交通省では、2020年の東京オリンピックパラリンピック開催に向けて、訪日外国人観光客に配慮した道路案内標識のナンバリング整備等を進めている。本稿は、日沿道における白神山地への案内をモデルケースとした道路案内標識の現状課題、改善対応、効果検証等について報告するものである。



図-1 能代河川国道事務所管内図



写真-1 秋田道「ニッ井白神IC」



写真-2 ニッ井高架橋部の案内標識



写真-3 世界遺産登録名称



写真-4 ローマ字表記とブナ林の写真



写真-5 「白神山地」の追加

3. 改善対応（試行）

それぞれの課題に対し試行（標識板サイズを変えず、既設標識の移設だけで対応等）を9箇所において行った。(1)見やすい位置へ移設、(2)「白神山地」を追加表記(写真-5)、(3)ローマ字表記を世界遺産登録名称に修正。

キーワード 観光振興、道路案内標識、改善

連絡先 〒016-0121 秋田県能代市鰯渚（かいらげふち）字一本柳 97-1 TEL 0185-70-1001(内線 433)

4. 効果検証

道路案内標識改善後の効果検証のため、平成28年9月17日（土）から3日間、白神山地世界遺産センター「藤里館」において103人（男性7割、女性3割）に対しアンケート調査を実施した。秋田県外からの来訪者は46人（45%）であり、その内、初めての来訪者は9割を占め、さらに案内ルートを通じた方は34名だった。この34名の内、「改善後の標識」を目視した方は22名だった。ここでは、この22名（初めての来訪であり地理的に不慣れな方）の満足度について紹介する。約8割の方が「ルートがよく分かった」と改善された道路案内標識に対する満足度は高い結果となった（図-2）。また、自由意見として「カーナビの指示は直進だったが、新しい案内標識のおかげで側道に入ることができた」があった。今後の改善点（図-3）としては、(1)「文字・標識を大きくして欲しい」、(2)「白神山地までの距離を明記して欲しい」、(3)「白神山地までの県道にも標識を設置して欲しい」などが挙げられた。検討会において、(1)については、既存案内標識で文字を大きくすることで案内が見えづらくなる懸念があり、標識自体も大きく出来ないことから、限られたスペースを使って簡単に分かるピクトグラム等を使用することとした。また、(2)、(3)については、秋田県や能代市、藤里町など各道路管理者や関係市町村に働きかけ、連携しながら白神山地までの経路案内の方法を検討することとした。

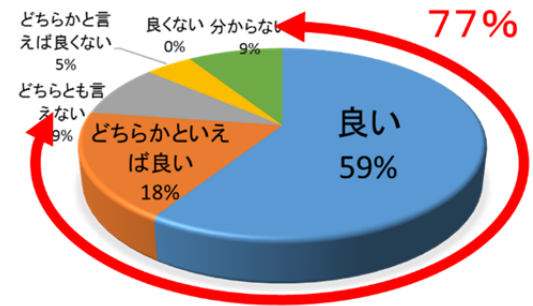


図-2 満足度 (N=22)

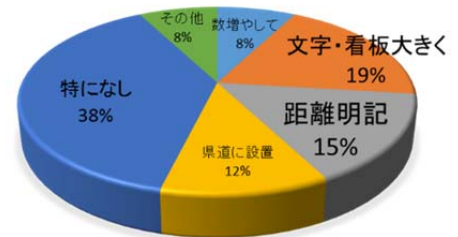


図-3 改善点 (N=22)



図-4

5. 次なるステップ（世界遺産エンブレムマーク使用申請）

検討会では、ピクトグラムや記号が統一されていないことへの解決策として、世界遺産であることを表示する「世界遺産エンブレムマーク（図4）」を補助標識として使用することとした。なお、このエンブレムマークの使用にあたっては、日本ユネスコ国内委員会への申請が必要である（H30年1月現在：申請中）。検討会において、設置箇所等を検討した。写真-6は、直前標識、写真-7は予告標識のイメージである。エンブレムマーク設置後に行う効果検証を基に最終的な標識の設置箇所及びエンブレムマークの位置を検討会で決定することとしている。



写真-6 直前標識（イメージ）

6. おわりに

今回の取り組みは、世界遺産である「白神山地」をモデルとして検討したものである。道路案内標識に世界遺産エンブレムマークを追加し、ローマ字表記は世界遺産登録名称と一致させるなどの検討を行った。国内では認知度が低い世界遺産エンブレムマークではあるが、今後、他の世界遺産の案内に使用され、多くに認知されることで、世界遺産「白神山地」への観光振興の一助になるものと思われる。今後は、世界遺産エンブレムマーク設置後の効果検証を行い、得られた結果を関係市町村等に情報提供し連携を図っていきたい。また、道路案内標識は、国内外を問わず、全ての利用者に対してわかりやすいものでなければならず、そのために、今後も検討を重ねていくものである。



写真-7 予告標識（イメージ）